

太宰府

九州国立博物館

全国で4番目の国立博物館である「九州国立博物館」は、「アジアとの交流の歴史」に焦点をあてた、新しいタイプの博物館。博物館の基本コンセプトである「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館」にもとづき、旧石器時代から近世末期(開国)までの日本の文化の形成について、主としてアジア諸地域との「交流」によって築かれてきた視点から展示。

●西鉄「太宰府」駅下車 徒歩約10分 ●休館/毎週月曜日



大野城跡(四王寺山)

市の北に、なだらかに広がる四王寺山頂にある山城。水城が造られた翌年の665年に太宰府の北の守りとして、南の備え基肄城(基山)と共に築かれた。

●西鉄「太宰府」駅下車 徒歩約60分



水城跡

天智3年(664)、唐の攻撃に備えて築かれた太宰府の防衛施設「水城」。太宰府から福岡に向かって道路や線路を横切る木立に覆われた丘が当時を偲ばせる。

●西鉄「都府楼前」駅下車 徒歩約20分



うめがえもち 梅ヶ枝餅



菅原道真公が榎寺で不遇な生活を送っておられた折り、浄明尼という老婆が、公の境遇に同情し、時折この餅を持参して、公の無聊を慰めたという。

公が薨去された際、この餅に梅の枝を添えて送ったという故事にちなみ、梅ヶ枝餅と称されることになった。

この餅に公の霊が通じたか梅ヶ枝餅を食べると病魔を防ぐに特効があるというので著名になり広く親しまれている。

大宰府政庁跡

7世紀後半、天皇が、日本の西の防衛と外交を担う九州の政治の中心として創建。現在は、大きな礎石が残っているだけ。道真公が「都府楼はわずかに瓦の色を看 観音寺はただ鐘声を聴く」と詠んだことから「都府楼跡」と呼ばれ、国の特別史跡地にも指定。

●太宰府天満宮より徒歩約30分



戒壇院

天平宝字5年(761)、当時日本を治めていた聖武天皇の勅願によって創建。奈良の東大寺、下野の薬師寺とともに、日本三戒壇のひとつに数えられ、西日本で仏門に入る人はここで戒を受けて僧になった。唐僧鑑真が帰化後、ここで初めて授戒を行ったことでも有名。

●太宰府天満宮より徒歩約20分



木うそ



鶯(うそ)は頸から頬にかけて美しい紅色、背や腹の羽はねずみ色、頭と尾が黒い小鳥で、きれいな声で鳴くので有名。「木うそ」は此の鳥が木にとまっている形を表したもので、天満宮の一月七日「うそかえ」神事に用いられ、幸運の守り神としての信仰があり大衆に親しまれている。古来の「うそかえ」は一年中の嘘を神前で誠に取りかえて罪をほろぼすためであると言われている。

観世音寺

天平18年(746)に完成。当時は南大門、中門、五重塔など七堂伽藍を備え、九州の寺院の中心的存在だった。日本最古の梵鐘があることで知られ、800~1000年前に創られた20体余の仏像と共に、国宝または重要文化財に指定されている。

●拝観料/一般500円 ●太宰府天満宮より徒歩約20分



太宰府館

太宰府の観光案内と特産品の販売コーナーを設けた1階部分、ギャラリーとして使われている2階、そして3階には約250名収容のまほろばホールを備えた、地域活性のための施設。無料の休憩スペースもあり、地元ボランティアによる史跡解説も利用できる。

●Tel (092) 918-8700 ●太宰府市宰府3-2-3 ●開館/10:00~22:00 (18:00以降にホール等の利用がない場合は、18:00閉館) 休館/毎週水曜日

